

# 東京医療保健大学大学院

医療保健学研究科 医療保健学専攻

修士課程

博士課程

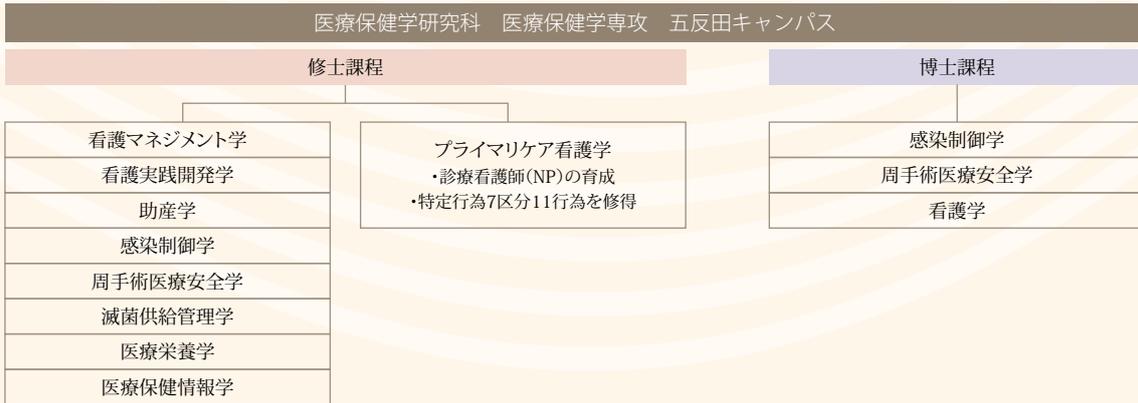


入学案内  
2026



# 働きながら学位取得を実現する大学院

現場と未来をつなぐ、質の高い医療の実現に向けた人材育成と、研究成果の還元を目指します



## 修士課程 高い専門性を持った医療現場のリーダーを育成

土曜日開講の授業と研究指導、年3回の集中講義により、フルタイムで働く社会人の方でも、仕事と学びを両立することが可能です。看護マネジメント学、看護実践開発学、助産学、感染制御学、滅菌供給管理学、周手術医療安全学、医療栄養学、医療保健情報学の8領域では、きめ細やかな指導により専門性を高め、学際性を重視した学修研究を展開します。また、プライマリケア看護学領域では、特定行為7区分11行為に加え「高度創傷管理」も選択可能。プライマリケア看護NP（診療看護師）の人材を育成します。

看護マネジメント学	P2	看護実践開発学	P3	助産学	P4	感染制御学	P5
周手術医療安全学	P5	滅菌供給管理学	P5	医療栄養学	P6	医療保健情報学	P6
プライマリケア看護学	P7						

## 博士課程 卓越した実践および研究・教育・管理能力を有する高度専門職業人を育成

土曜日や休日を中心に指導を行い、社会人が働きながら学び、研究を進められるよう配慮しています。本研究科で学ぶ学生の多くは医療従事者、医療関連企業勤務者、教員（医療系）であり、仕事と研究を両立しています。

感染制御学	P9	周手術医療安全学	P9	看護学	P9
-------	----	----------	----	-----	----

### ご挨拶



専門性をきわめ、  
各領域のリーダー育成を  
目指します

医療保健学研究科 研究科長  
坂本 すが

東京医療保健大学大学院は、仕事を続けながら修士あるいは博士の学位を取得できるのが特徴です。

現場に根を張りながら、未来の日本の医療と保健に貢献する研究を指導・支援しています。医療の現場では、健全な倫理観と高度の専門性を持ち、かつ、高いコラボレーション能力を持った人材が求められます。このような資質は多くの人が潜在的に持っており、少し磨きをかければその能力を発揮するチャンスに恵まれます。東京医療保健大学大学院は、きめ細やかな助言・指導により、この隠れた能力を引き出し、その成果を医療現場に還元することを目標にしています。

修士課程には、看護マネジメント学・看護実践開発学・助産学・感染制御学・周手術医療安全学・滅菌供給管理学・医療栄養学・医療保健情報学の8領域を設置しており、博士課程には、感染制御学・周手術医療安全学・看護学の3領域があります。そして、2023年4月から新たにプライマリケア看護学領域が修士課程に加わりました。

仕事を継続しながらの修学・研究は楽ではないかもしれませんが、前向きな姿勢で取り組み、その成果がより質の高い医療保健サービスに繋がることを目指し、共に頑張りましょう。そのために、私たちは、最大限の支援をいたします。意欲あふれる人材を歓迎します。

### contents

ご挨拶	1
修士課程	2
カリキュラム	8
博士課程	9
キャンパスライフ	10
入試概要・学生納入金	11
理事長・学長メッセージ	12
よくある質問	12
三つの方針	13

# 看護マネジメント学

(平成19年4月設置) / 修士課程

社会の変化を捉える確かなビジョンを創造し、その実現に向けて卓越したマネジメント能力を發揮する看護職者を養成



少子超高齢社会を迎え国や自治体の保健医療政策は大きく変化中、保健医療現場での看護職者への期待はますます高まっています。こうした社会の変化を捉え、限られた資源を効果的に活用し役割を果たすためには、的確なビジョンとそれを実現するための卓越したマネジメント能力が不可欠です。本領域では、病院や地域、教育等の現場で活躍する看護職リーダーの方々が、日頃の活動の中で感じている問題意識や疑問を研究課題へと発展させ、研究から得られたエビデンスを基に、マネジメントの実践に活かす力の養成を目指します。

※看護マネジメント学領域修了者は、公益社団法人日本看護協会の認定看護管理者審査受験資格要件における「看護管理に関連する学問領域の修士以上の学位を取得している者」に該当します。



教授  
佐々木 美奈子

看護マネジメント学領域では、働きながら学ぶことを大切にしています。実践の場に軸足を置きつつ、グローバルな広い視点で考えられる、グローバルな人材を育成していきたいと考えています。

高齢化に加え人口減少の時代に入り、医療の提供体制に変革が求められています。現場が抱える課題に対し、答えは必ずしも一つではありません。解決に向けては、広い視野で問題を捉え直し、関わる人々と対話を重ねながら、最適解を見出していくことが必要です。

大学院の講義は、看護だけでなくさまざまな知識・経験を持った講師が担当しています。また、病院、教育機関、訪問看護ステーションなど多様な場で働く院生が集まるため、答えが一つではない課題について、対話を繰り返し考え続ける力を醸成する機会となっています。さらに広い視野で物事を考えていくために、英語力の強化にも力を入れています。一人ではスキルアップが難しい英語も、同じ志を持つ仲間と一緒に学ぶことで心強さを感じ、学びを深めていくことができます。

学位研究は、自らの視点で問いを究め、研究計画を立てた上で実施していきます。日常の想いや疑問を研究課題に洗練させるために、文献の読み方を学んだ上で、関連する文献をしっかりと読み込み、ゼミでのディスカッションを重ねていきます。仕事と研究の両立は大変なことも多いですが、仕上げたときの達成感は、とても大きいものです。

より良い看護実践、それを支える看護マネジメントを創造したいという思いを共有しながら、皆様と共に学ぶことを楽しみにしています。

## ◆ 修了生メッセージ



看護マネジメント学  
修士課程  
2021年度修了生  
笠原 邑斗

私は本学の学部を卒業し地元で働く中で、地方の看護水準や研究文化の希薄さに課題を感じ、これからの看護のあり方を学び考えたいと思い大学院へ進みました。妻子を持ちながらの進学は時に苦勞もありましたが、母校は私を温かく迎え入れてくれ、さまざまな職業背景や経験を持つ仲間と励まし合い、議論や知識の共有を通じて刺激を与え合いながら学ぶ2年間は非常に充実していました。

現在は研究指導と自身の研究を並行して行っており、大学院での学びはその鍵となる知識と研究能力の習得に貢献しました。本学の先生方や繋がりのあるゲスト講師の方々から学ぶ知識は多様な視点をもたらし、豊富な教育資源と優れた教員陣の指導は研究能力を飛躍的に向上させてくれ、そして何よりも学ぶ楽しさを実感しました。看護は持続的な学びと自己啓発が重要です。本学で得た力を糧に、看護が向かうべき方向を見据えながらより良い未来の実現に向けて努力を続けたいと思います。

## 修了生の論文題目

- 急性期病院で働く中堅病棟看護師のプロアクティブ行動と職場環境との関連
- 心臓移植実施施設に勤務する看護師の脳死での自身の臓器提供意思と家族との共有に関する実態及びその背景要因
- 看護部門責任者のタスク・シフト/シェアへの認識と課題の探求～A県内病院の看護部門責任者へのインタビューから～
- 看護管理者のキャリア・プラト化と能力發揮の機会および組織風土の関連
- 高齢者排便ケア実践時の看護アセスメントについての文献レビュー
- LGBTに対する看護師長の知識・認識と入院中の配慮の関連
- 看護師長の職場における経験学習と他者支援との関連
- 成人移行期支援外来における性の健康への支援の実践
- オンコール勤務を担う手術室看護師の勤務状況と職務満足に関する研究
- 中高年期看護師における看護管理者のマネジメントとジェネラティビティの関連—職場における心理的居場所感を介した看護管理者の影響の考察—
- 看護学実習カンファレンスにおける看護学生の発言行動と評価懸念およびカンファレンス前の教員の関わりとの関連
- 定年退職前後の看護師の特長と定年退職後の看護師の配置効果に関する文献検討
- 特定行為研修修了者とともに働く同僚看護師が捉える修了者の実践や指導に対する認識と看護師への影響
- 特定行為研修修了者の特定行為に係る活動状況と患者選定・手順書運用の方法および組織体制との関連
- 消化器内視鏡において看護師が実践する看護～内視鏡看護師へのインタビュー調査から～
- 小児看護学実習において小児病棟実習指導者が行う学生と子どもの関係形成のための支援～臨地実習指導者講習会修了者へのインタビュー調査による質的研究～
- 皮膚・排泄ケア認定看護師が小児の褥瘡管理に抱く困難とその対処の実践
- 新型コロナウイルス感染症患者受け入れを担った看護師長のワークモチベーション維持の検討
- 中堅看護師の離職意向とキャリア・アンカーとの関連～チームの要である中堅看護師の新たな離職を防止するために～
- 表皮水疱症患児の創傷ケアにおける家族介護者が抱く困難と医療従事者に希望する支援
- 看護専門学校における臨地実習でリスク回避行動のとれた学生のリスク感性の実態と振り返りとの関連
- 業務負担軽減に対する病棟単位の取り組みと交代勤務を行う看護師のリカバリー経験の関連
- 国立ハンセン病療養所における「ライフサポートカンファレンス」実施による看護師・介護員のケア連携の変化
- 看護師の勤務表作成への関与状況と勤務表の満足感

# 看護実践開発学

(平成27年4月設置) / 修士課程

エビデンス活用に基づく高い看護実践能力、社会背景の変化に伴い生じる新たな看護の必要性に対応した看護開発能力、ケアの伝承を行う能力を有する看護職者の育成



人口構造の変化、グローバル化、地域包括ケアの構築など、看護職を巡る社会構造も大きく変化しています。今、あらためて看護とは何かを探求し、探求し続ける研究力をつけていくことが必要になっています。看護実践開発学では、社会のニーズに対応した看護実践を開発していく力、ケアを伝承し、人材育成に寄与する能力を養うことを目的としています。



教授  
谷本 真理子

看護実践開発学領域は、社会の変化に応じて人々の健康を支えることを看護学の立場からあらためて問い直し、ケアを創出することを目指して2015年度に開設されました。

看護職は、日々の実践の積み重ねの過程でケアの技術を刷新し洗練させている一方で、医療の進歩や制度の変化、人々の価値観の変化を受けて、今まで行ってきた実践に疑問を感じることも多いでしょう。今あらためて、看護について考え直し、より良い看護の専門性を、実践の場で発揮できる力をつけていこうではありませんか。より良い実践を行うためには、実践を言葉にし、他者と共有して高め合っていくことが必要です。

本領域の特徴は、多様な場や看護の対象者への実践に関心がある院生が集まることです。看護実践の多様性をお互いに知り、議論を通して、複雑化する医療ケアの場における課題を見出し探求する力、看護の「知」を言葉で表し、「知」を活用して実践を改善・改革していく力、誰もが理解できる根拠に基づき看護実践を説明し、他者に発信していく力を養うことを目指していきます。

領域の独自科目では、看護理論を用いて日々の看護実践を意味づけたり、看護開発に向けて看護の対象のニーズを探求したりしていきます。日々の看護実践の奥深さや課題の発見、看護開発に向けた院生とのディスカッションは、教員諸共ワクワクしています。他にも、さまざまな場・対象特性に焦点を当てて看護の多様性を学ぶ科目、看護実践開発に関連深い研究方法、看護の知を広める情報発信についても学べる科目も準備しています。修士研究は、院生一人ひとりの関心や疑問に応じて指導教員がつきますが、領域教員によるゼミも設けて多角的でオープンな意見交換の場も準備しています。研究に取り組む中で大変だなど思うことは誰しもあると思いますが、最終的に皆さんの達成感や看護実践・教育実践に活かすことに繋がっているとの声を耳にしますと嬉しく思います。

本学にはさまざまな看護実践領域、他の専門領域の教員がたくさんいます。どうぞ、門戸を叩いてみてください。教員一同、皆様方と対話し、議論できる日を、首を長くしてお待ちしております。

## 修了生メッセージ



看護実践開発学  
修士課程  
2024年度修了生  
野口 健太郎

私は本学の看護学部を卒業し、精神科病棟で勤務後、看護大学教員への転職と同時に大学院に進学しました。臨床で看護師として働いていた頃、精神科病院を中心に普及されている「包括的暴力防止プログラム(CVPPP)」の院内の普及状況に課題を感じており、それに関連したテーマで研究に取り組みましたが、指導教員の先生方から親身なサポートをいただき、仕事と両立しながら研究を進めることができました。また、看護実践開発学領域の必修科目である「看護実践開発特論」の講義では、臨床現場で私が実際に経験した事例を取り上げ、自身の看護を振り返り、同じ領域の院生や先生方と議論を重ね、さまざまな視点からケアの可能性を探求することができ、他の講義も含めて学びが多く、充実した2年間でした。本領域での学びは、研究能力の向上だけでなく、看護師としての成長に大いに貢献しました。この学びを活かし、看護大学の教員として看護学生の学びを支援し、研究活動等を通して社会に貢献していきたいと思っています。

## 修了生の論文題目

- ・一分間指導法使用経験の有無と臨地実習指導者の指導との関連
- ・包括的暴力防止プログラム(CVPPP)トレーナーの資格活用に影響を与える要因
- ・急性期病院における終末期がん患者のこれからの過ごし方の意向を把握する一般病棟看護師の関わり
- ・妊娠糖尿病と診断を受けた女性の産後生活～産後1年以内の女性のインタビューから～
- ・心不全で入院した患者に対する病の振り返りを活用したアドバンス・ケア・プランニングの介入効果
- ・看護教員のLearning Management System利用状況と関連要因の検討
- ・卒後2～5年目の看護師を対象にしたレジリエンスの育成～「個人と集団活動を通じたレジリエンス・プログラム」を参考にした介入の試み～
- ・学校管理下において一般教員が一次救命処置(BLS)を実施する際の自信に関する研究
- ・急性期病院で入院中の外国人患者と専門職が違和感をおぼえる出来事とその対応～患者経験価値に基づく医療の質向上にむけて～
- ・骨形成不全症を持つ思春期患者の身体活動における体験
- ・緩和ケア病棟で終末期せん妄が出現したがん患者と関わる家族の思い
- ・看護実習の臨地実習指導者が学生指導において抱く困難感の因子と個人属性の検討
- ・フットケアを受けている高齢透析患者の足部皮膚の実態と応用的日常生活動作、痛みとの関連
- ・看護集団のなかで発達障害のある看護師が働く経験～看護集団で働くための支援の検討～
- ・リハビリ特化型デイサービスを利用する高齢者の通所継続の理由
- ・思春期発症がん患者の社会生活復帰における情報ニーズに関する研究
- ・思春期にある小児がん経験者の自立に向けた親の思いと関わり
- ・地域医療支援病院において病棟看護経験の有無が手術看護継続に及ぼす影響に関する研究
- ・地域包括支援センター専門職による認知症が疑われる高齢者の相談支援における困難の内容
- ・腸管の消化・吸収機能障害がある思春期患者のHealth Locus of Controlと療養行動
- ・手指衛生プログラムによる看護学生の手指衛生の認識と行動への影響

# 助産学

(平成24年4月設置) / 修士課程

助産師としてキャリアアップに繋がる教育・研究力を養い、医師との協働を探索・研究できる助産師を育成



ハイリスク出産の増加や、家族形態の多様化による家庭内でのメンタルヘルスや乳幼児虐待などの問題が深刻化している中で、助産師は、周産期に限らず、生涯にわたる幅広い世代への性と生殖に関する権利を支援できる高い能力を求められています。また、医師との連携の中でタスクシフティングできる妊産婦および新生児の健康診査や生活の場である地域での助産ケア等、助産師に求められる業務は拡大されています。これまでの助産師としての助産実践能力を再確認し、今後のキャリアアップに繋がる教育・研究力を養い、医師との協働を探索・研究できる助産師を育成します。



教授  
米山 万里枝

日本では、晩婚化・晩産化によるハイリスク出産の増加や、核家族化、家族形態の多様化による家庭内でのメンタルヘルスや乳幼児虐待などの問題も生じています。

このような社会環境の変化に対応し、周産期に限らず、生涯にわたる幅広い世代への性と生殖に関する権利を支援できる高い能力を有する助産師が求められています。

助産に関する診断・技術を有することは無論のことですが、医師の働き方改革を中心としてタスクシフティングできる業務内容となる妊産婦および新生児の健康診査や生活の場である地域での助産ケア等、助産師に求められることは拡大されています。

そこで、大学院助産学領域では臨床経験を有する助産師を対象として、助産学におけるEvidence-based Medicine (EBM)・Narrative-based Medicine (NBM)に基づいた高度な助産実践力、ケアの開発・研究、さらに真の意味での医師との連携や協働を目指したチーム医療の実現、伝達力・折衝力など、母子保健分野に貢献できる人材育成を行っています。

本領域では、臨床助産学特論・演習、助産学教育特論・演習、助産学特論Ⅰ(ウィメンズヘルス)、助産学特論Ⅱ(母子保健活動論)を専門科目として、助産を学問として探求していきます。具体的には、母子の健康管理・分娩管理実践、院内助産および産外産科や周産期医療などの諸問題への取り組みや母体搬送前後の緊急対応および周産期医療におけるクリティカルケア等、また、教育学特論・演習を通して教育学に触れ、母子およびその家族、新人教育や臨床実習指導者として助産学生教育への指導・教育力を学び、臨床助産学特論・演習を通して、予防医学や健康教育のあり方や育児文化を学びます。

また、本学では産後ケア研究センターを設置しており、品川区と連携して大学院における研究で得た成果を、産後ケア事業の実践の場で活かすことが可能です。保健・医療の学問的なエキスパートへの道や、実践の場でのキャリアアップを目指す、あるいは研究力となる知の探究の扉を、一緒に開いていきましょう。

## 特色

### 産後ケア研究センター、乳児院、助産院での実習



### 母子支援クラスを通じた教育演習



### 医療機器工場見学



## 在学生メッセージ



助産学  
修士課程 2年\*  
松田 優子  
※2024年取材時

私は周産期のメンタルヘルスケアについてより学術的な知見を深め、今後の助産師としてスキルアップをしたいと考え大学院に進学しました。現在、本学の助手として勤務しながら、大学院生として学んでいます。

私は業務を通じて不安を抱える褥婦が多く、個々に沿った育児サポートが完全ではないということに課題を感じていました。例えば、臨床現場や産後ケア事業で関わった褥婦のほとんどは育児に対する何らかの不安を訴えており、出産年齢の高齢化や家族サポートの不足等による出産に係る問題が顕在化していることを、業務を通じて実感していました。大学院ではこうした社会課題の解決に向けて助産師の産後ケアの質の向上に向けた取り組みを行っていきたいと思います。

本学では深い見識をお持ちの助産学領域の先生方はもちろんのこと、幅広い分野の経験豊富な先生方からも講義を受けることができます。多様なバックグラウンドを持つ同級生と共に研究に励んでいきたいと思っています。

## 修了生の論文題目

- ・妊娠リスクスコアを活用した助産所と嘱託医療機関との医療連携の検討
- ・産後1年までの育児支援ニーズの経時的変化
- ・正統的周辺参加としての臨地実習における学びのプロセス
- ・日本の母親のD-MERの実態および産後のメンタルヘルスとの鑑別方法の一考察
- ・出産体験の振り返りに関する助産師の判断の一考察
- ・0歳児保育を希望している母子の入所背景と実態からみた支援の在り方
- ・三陰交への円皮鍼・灸による刺激が成人女性の冷えに対する症状緩和の効果の測定
- ・骨盤外計測法を使用した骨盤出口部の骨推測パラメータの検討
- ・乳児全戸訪問時における助産師による生後4か月までの児を持つ母親への愛着形成を促す支援の検討
- ・産前産後の骨盤底機能不全と骨盤外計測値の変化ならびに骨盤底筋随意収縮との関連

# 感染制御学

(平成19年4月設置) / 修士課程

医療のリスクマネジメントにおける重要課題である「感染制御」のエキスパートを養成



感染制御学は、感染症のリスク分析・管理を行う上で基盤となる学問であり、医療・介護関連施設のみならず、一般社会において重要な役割を果たしています。医療・介護関連施設での感染制御のエキスパートは、医療に携わる各部門において求められており、感染制御に関連する企業との連携も不可欠です。本大学院で感染制御について学んだあとは、医療従事者は病院での感染制御チームを牽引する立場となり地域貢献活動を行うことが期待され、企業人は一般社会での感染制御活動を行っていくことが期待されています。

# 滅菌供給管理学

(平成26年4月設置) / 修士課程

滅菌サプライ業務を取り巻く最新知識の修得と総合的な研究を実施できる能力を備えた専門職業人を育成



病院の滅菌供給部門に関わる全てがこの分野の研究対象であり、滅菌器の性能に関わる基礎的研究、滅菌保証(滅菌バリデーション)、滅菌包装、被滅菌物の素材への影響、滅菌媒体の生体毒性、器械のトレーサビリティ、物品管理の新しい手法と情報管理などを検討課題とし、これらの課題に専門的知識と創造的問題解決能力を有する高度な専門職業人を育成します。

# 周手術医療安全学※

(平成25年4月設置) / 修士課程 ※令和8年度の募集はありません。



教授  
森屋 恭爾

新型コロナウイルス感染症流行を経験し感染制御専門家の人材育成が求められている今、感染制御学/滅菌供給管理学/周手術医療安全学領域では専門性を重視した教育を行っています。

感染制御学領域では、多剤耐性菌、ウイルス、个人防护具、標準予防策、消毒、滅菌の基礎知識からリスク分析・管理まで幅広く学ぶことが可能です。

滅菌供給管理学領域では、洗浄・消毒・滅菌について幅広く微生物学と化学的な知識の獲得と、器械の洗浄・滅菌のモニタリング、バリデーションを理解する科目を編成しています。

周手術医療安全学領域では、手術部の機器、空調設備の知識から手術関連情報の処理、患者安全対策など手術室全体の運営について学ぶことができます。

どの領域も、看護師、検査技師、企業人などさまざまなバックグラウンドを持った院生が就学しています。皆さんが将来医療・介護関連施設のみならず社会において重要な役割を果たしていけるよう、教員一同全力で支えています。

## 在学生メッセージ



感染制御学  
修士課程 2年  
豊島 拓朗

私は病院の感染制御の専従看護師として勤務しています。感染制御は、医療や看護の質の担保、向上を意味すると考えています。「学びを深め、感染制御の分野でもっと人の役に立ちたい!」との思いから本学を受験しました。本学は微生物実験や化学実験ができることも魅力です。学生のペースに合わせて丁寧に指導して下さる先生方のおかげで、研究活動を通して思考力を鍛えることに喜びを感じています。職種の異なる同期や先輩方との交流もあり、新たな学びや発見があります。本学での学びは私の人生を豊かにする機会となっています。

## 修了生メッセージ



滅菌供給管理学  
修士課程  
2024年度修了生  
橋本 素乃

私は業務をする中で疑問に思うことを深めたいと思い、大学院に進学しました。振り返るとご指導いただいた先生方や先輩方、同期とのディスカッションを通して、自分が思っていた疑問だけでなく、より自身の分野に対しての知識や考えを深めることができました。学生は個々の研究テーマが異なりますが、テーマに応じた丁寧な指導体制により、実務に直結する研究成果を上げることができます。滅菌供給管理学は、医療の要となる重要な分野です。本学で得た学びを現場や社会に還元できるよう、努力していきたいと思っています。

## 修了生の論文題目

### 感染制御学

- 療養環境整備における環境清拭時の清拭圧力に及ぼす要因の検討
- 微生物の接触伝播移行率と伝播源の湿潤状態との関係ーバイオスキンを使用した接触伝播モデルの基礎的研究ー
- Clostridioides difficile*の毒素産生性の違いによる好気環境下での芽胞数の経時的評価

- 手洗いシンク排水設備の適切な管理を指向した細菌の遡上に関する基礎的研究
- アルコール手指消毒剤の含有消毒薬が表皮由来細胞の細胞生存率と細胞形態に及ぼす影響

### 滅菌供給管理学

- 滅菌供給部門の機械洗浄におけるpH値を用いたすすぎ性能試験の検討
- 減圧沸騰式洗浄器における細管用洗浄テストソイルの開発

## 医療栄養学

(平成19年4月設置) / 修士課程  
エビデンスに基づいた科学的な医療栄養学を修養し、栄養サポートや病態アセスメントの中心となる人材を育成



## 医療保健情報学

(平成19年4月設置) / 修士課程  
医療保健分野の課題をデータサイエンス、情報通信技術を用いて解決する医療人の育成



医療や福祉の世界ではエビデンスに基づいた臨床栄養管理が不可欠であり、チーム医療の中で、真に栄養や臨床検査の専門家として、患者さんのアセスメントとサポートに関する知識と技術を身につけた人材が必要とされています。当領域では、臨床に即した医学的諸問題を科学的に研究することで、健康管理の専門家として中心的な役割を担ってゆくことのできる人材を育成します。



名誉教授  
小西 敏郎

医療栄養学領域に入学する院生の多くは、医療の現場で栄養に携わるNSTや栄養管理部門あるいは臨床検査部門などの専門職である管理栄養士や臨床検査技師で、NSTやICT活動などで組織のマネジメントを積極的にリードしている方々です。そこで当領域では、医療・保健分野において、社会のニーズに十分に答えられるスペシャリストの養成を主眼とし、専門的かつ高度な知識を体系的に学ぶことで、臨床現場でさらなる実践能力を発揮できるように学んでもらいます。

また医療現場で実際に遭遇されている問題を、自分の修士研究のテーマとして取り組むことで、医療栄養学領域における研究の意義についてしっかりと認識でき、臨床での実践において、科学的根拠に立ち返ることの重要性を理解できるようになります。

「生体の消化・防御機能特論」「人間栄養学特論」「臨床栄養学特論・演習」「ニュートリションサポートチーム特論」などの特色のある講座や修士研究を通じて、自分が臨床現場で直面している諸問題について、エビデンスに基づいた栄養学(EBN)や臨床検査学(EBLM)を修得するスタートにしてください。コミュニケーション能力の向上、研究計画の立案と完遂、データの統計解析、そして論文と英文抄録の作成を熱心に指導するスタッフが揃っていますので、一緒に大学院で学びましょう。

日常業務で直面している課題を広く医療保健分野の課題として捉える視点が重要です。本領域では、そのような視点で捉えた課題に対して自施設等のデータやビッグデータをデータサイエンス、情報科学等の力を活用して解決策を紡ぎ出す方法論を講義で習得しながら、研究を通して実践的な課題解決能力を身につけることを目指しています。



教授  
石原 照夫

我が国が目指すべき未来社会の姿として、サイバー空間と現実の空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立させる人間中心の社会、すなわちSociety 5.0が提唱されています。医療の分野でもデジタル化が進み、医療現場や各個人を取り巻く環境はIoTへと動き出し、デジタルヘルスの時代を迎えようとしています。しかし、蓄積されつつあるデータを分野横断的に分析して、課題解決していくデジタルトランスフォーメーション(DX)は

これからです。DXを進めるためには、DXを牽引していく人材が不足しています。社会人大学院としての本領域の使命は、DXに必要な知識、問題解決能力を修得するリスキリングであると考えています。

Society 5.0を目指すには、日々の業務で常に問題意識を持ち、自施設の課題を我が国の医療保健分野の課題という視点で整理して、データサイエンス、情報通信技術を用いて課題解決策を紡ぎ出す努力を積み重ねていく必要があります。その努力の第一歩を、教員と協働して踏み出していきたいと思います。実際の研究には医療施設、企業での実務経験を持つ医療、看護、医療情報、AI・データサイエンス等を専門とする複数の教員が研究課題の遂行を多面的に支援します。新しい未来社会の医療保健分野で、新たなスキルで実践に即した課題解決能力を身につけ、リーダーとして現場を牽引できるようになることが本領域での学修・研究の到達目標です。

### ◆ 修了生メッセージ



医療栄養学  
修士課程  
2016年度修了生  
高山 はるか

大学院進学を考える際、私は「大学院で学ぶことの意義は何か」と自問したことがありましたが、学生生活を通してその答えを見出すことができました。

研究のプロセスを進める中においては、先生方の丁寧な指導の下、論述する大変良い訓練ができました。また本学の特徴の一つである、経験や領域の異なる学友との学びや交流を通して、視野を広げて物事を考えることができるようになりました。私はその後、博士課程へと進みましたが、本学で得た学びや経験の全てが基盤となって今も役立っています。本学は社会人大学院生として通いやすい環境であるため、全国から学生が集まっていることも良い刺激となり、大学院で学ぶ意義をより深いものにしてくれます。

現場で疑問に直面し、それを解決したいという探求心をお持ちの方は、ぜひその疑問をテーマに、研究に取り組んでみてはいかがでしょうか。

## 修了生の論文題目

### 医療栄養学

- ・中学生男子サッカー選手における食事と睡眠の関連
- ・摂食嚥下障害を伴う入院患者に対する個別対応を加えた嚥下調整食による栄養管理の効果
- ・女子大学生の睡眠の質と腸内細菌叢および食生活習慣の関連
- ・大腿骨近位部骨折患者に対して管理栄養士が関与することによるADL・BMIへの影響

- ・変形性膝関節症患者における高位脛骨骨切り術後の体重変化とそれに関連する因子の検討

### 医療保健情報学

- ・男性更年期障害に関する疫学的調査
- ・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査からみた認知機能低下をもたらす要因
- ・慢性維持血液透析患者における透析低血圧の要因に関する疫学的研究
- ・医療介護福祉従事者における医療介護専用SNS利用に関する探索的研究

# プライマリケア看護学

(令和5年4月設置) / 修士課程

在宅等を含むあらゆる場で医療ニーズを持つ人々にタイムリーに応えていくために、高度な臨床実践能力を発揮するプライマリケア看護NP(診療看護師)の人材育成

2040年には少子高齢社会の課題がさらに増大し、労働人口は減少するにもかかわらず、医療ニーズの高い高齢者の数は現在と変わらないと想定されています。医療施設から在宅等を含むあらゆる場に医療ニーズを持つ人々が増加していきます。この人々の病態変化にタイムリーに応えていくためには、医療安全に配慮し、病態判断力を強化し、高度な臨床実践能力を発揮できる看護師の育成が必要となります。本領域ではこれまで積み上げてきた看護の叡智を軸に、プライマリケアと医学の知識を合わせ、医療と生活の両面から人々を支えるプライマリケア看護NP(診療看護師)として、活躍できる人材育成を目指しています。



教授  
溝上 祐子

プライマリケア看護学領域は、五反田キャンパスで初めてNP(診療看護師)を養成する大学院として令和5年4月に開設いたしました。五反田キャンパスでは、できるだけ臨床に身を置きながら学べる環境の提供と支援を第一に考えています。オンデマンド授業や遠隔教育をできる限り取り入れ、遠方の方も働きながら受講できる工夫をしています。

さて、これからの日本は少子高齢化社会の課題がさらに増大していきます。病院から在宅、老人施設など、あらゆる場に医療を必要とする方が増えることでしょう。この人々の苦痛や重症化を予防していくには職種を超えたタイムリーな対応が求められます。病態判断力を強化し、高度な臨床実践能力を発揮できる看護師をあらゆる場に配置することが必須となります。本領域ではこうした日本の医療が変革する中、これまで積み上げてきた看護の叡智を軸に、プライマリケアと医学の知識を合わせ、医療と生活の両面から人々を支えるプライマリケア看護NP(診療看護師)として、活躍できる人材育成を目指しています。また、本領域の特徴として特定行為7区分11行為に加え「高度創傷管理」の選択科目を準備し、日本で最も創傷管理に強いプライマリケアNPの育成に力を入れていきます。多くの受験生の応募を心からお待ちしております。

## Master1

### 特定行為研修科目

- ・共通科目(オンデマンド)
- ・NP教育科目

前期 NP活動同行実習

## Master2

### 特定行為研修科目

- ・区分別科目
- ・NP教育科目

前期 統合演習  
後期 臨地実習

NP資格認定試験  
(日本NP教育大学院協議会)

## 修士学位

《プライマリケア看護学》

+

NP  
Nurse Practitioner  
診療看護師

## 通年 課題研究 / 論文作成 特定行為7区分11行為を修得

### 修了生メッセージ



プライマリケア看護学  
修士課程  
2024年度修了生  
近藤 晃代

私は急性期病院で、皮膚・排泄ケア特定・認定看護師、部署の管理者として勤務しておりますが、医学的な視点、研究的視点でケアを捉え、理論と実践を繋げることが不足していると感じ、この大学院に進学しました。働きながらでしたので辛いこともありました。先生方の手厚いご指導の下、院生みんなまで助け合いながら、診療看護師としての思考・実践を学ぶことができました。そして、診療看護師としてだけでなく、私が看護師としてどうあるべきなのかを今一度見つめ直し、学ぶこともできました。ここでの学びを活かして今後はさらに、患者さん・ご家族に安全に安心してもらえるケアを提供していく、そしてスタッフに対し根拠を持って指導していきたいと思っています。

### ● 3つのポイント

- 1 病院・在宅でも活かせる、「生活」を基盤とした高度看護実践
- 2 11の特定行為に加え、高度創傷管理(選択)を強化
- 3 働きながら修士学位とNP認定資格の取得を目指すことが可能

### ● 受講可能な特定行為:7区分11行為

特定行為区分	区分名	行為名
1	呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連	①気管カニューレの交換
2	ろう孔管理関連	②胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換
3	創傷管理関連	③褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去 ④創傷に対する陰圧閉鎖療法
4	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	⑤脱水症状に対する輸液による補正 ⑥持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整
5	感染に係る薬剤投与関連	⑦感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与
6	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	⑧インスリンの投与量の調整
7	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	⑨抗けいれん剤の臨時的投与 ⑩抗精神病薬の臨時的投与 ⑪抗不安薬の臨時的投与

看護マネジメント学・看護実践開発学・助産学・感染制御学・周手術医療安全学・滅菌供給管理学・医療栄養学・医療保健情報学

プライマリケア看護学

※太字は特定行為科目

区分	必修選択	科目名	単位	開講年次	
総合領域科目	必修	医療保健・管理概論	2	1・2年	
		学術コミュニケーション特論	2	1・2年	
		研究方法特論Ⅰ【研究リテラシー】	2	1・2年	
		研究方法特論Ⅱ【量的研究方法論】	2	1・2年	
	選択	研究方法特論Ⅲ【統計解析実践論】	1	1・2年	
		研究方法特論Ⅳ【質的研究方法論】	1	1・2年	
		臨床教育方法特論	1	1・2年	
		医療薬学特論	2	1・2年	
	研究演習	必修	死生学概論	2	1・2年
			研究演習Ⅰ	4	1年
必修		研究演習Ⅱ	4	2年	
		看護マネジメント特論Ⅰ【経営組織論】	2	1・2年	
看護マネジメント学	必修	看護マネジメント特論Ⅱ【経営戦略論】	2	1・2年	
		看護マネジメント特論Ⅲ【人材育成・活用論】	2	1・2年	
	選択	看護マネジメント特論Ⅳ【医療の質保証】	1	1・2年	
		看護政策論（※隔年開講）	1	1・2年	
		ダイバーシティマネジメント論（※隔年開講）	1	1・2年	
		看護マネジメント研究演習【質的研究】	1	1・2年	
		看護実践開発特論Ⅰ【看護実践構築論】	2	1・2年	
		看護実践開発特論Ⅱ【対象看護開発論】	2	1・2年	
	看護実践開発学	必修	看護実践開発特論Ⅲ【広域ケア開発論】	2	1・2年
			看護実践開発特論Ⅳ【看護実践発信論】	2	1・2年
選択		看護実践研究的方法論	2	1・2年	
		臨床助産学特論	2	1・2年	
助産学	必修	臨床助産学演習	2	1・2年	
		助産学教育特論	2	1・2年	
		助産学教育演習	2	1・2年	
		助産学特論Ⅰ【ウィメンズヘルス】	2	1・2年	
	必修	助産学特論Ⅱ【母子保健活動論】	2	1・2年	
		感染制御学総論	2	1年	
		感染制御学特論Ⅰ	2	1年	
		感染制御学特論Ⅱ	2	1年	
専門領域科目	必修	感染制御学研究特論Ⅲ	2	2年	
		感染制御学研究特論Ⅳ	2	2年	
		実践感染制御学Ⅰ【感染制御マネジメント論】	1	1・2年	
		実践感染制御学Ⅱ【医療機器・消毒薬等の管理論】	1	1・2年	
	選択	臨床微生物学特論	1	1・2年	
		医療機器学特論	1	1・2年	
		周手術医療安全管理学特論	1	1・2年	
		生体の消化・防御機能特論	2	1・2年	
医療栄養学	必修	人間栄養学特論	2	1・2年	
		臨床栄養学特論	2	1・2年	
	選択	臨床栄養学演習	2	1・2年	
		ニュートリションサポートチーム特論	2	1・2年	
医療保健情報学	必修	ヘルスインフォマティクス特論Ⅰ【臨床情報処理論】	2	1・2年	
		ヘルスインフォマティクス特論Ⅱ【医療保健情報システム論】	2	1・2年	
	選択	ヘルスインフォマティクス特論Ⅲ【医療経営構想論】	2	1・2年	
		ヘルスインフォマティクス特論Ⅳ【医療知識処理論】	2	1・2年	
		ヘルスインフォマティクス特論Ⅴ【薬剤情報特論】	2	1・2年	

区分	必修選択	科目名	単位	開講年次	
プライマリケア看護学領域科目	必修	保健医療・福祉システム特論	1	1年	
		死生学入門	1	1年	
		プライマリケア看護実践特論Ⅰ	2	1年	
		プライマリケア看護実践特論Ⅱ	2	1年	
		人体構造・機能学特論	2	1年	
		統合臨床病態生理学・疾病概論	2	1年	
		プライマリケア疾病特論	2	1年	
		プライマリケア症候特論	2	1年	
		臨床薬理学特論Ⅰ	1	1年	
		臨床薬理学特論Ⅱ	1	1年	
		フィジカルアセスメント特論	1	1年	
		包括的健康アセスメント特論	2	1年	
		フィジカルアセスメント応用演習	1	1年	
		臨床推論	1	1年	
		統合医療安全・特定行為実践特論	1	1年	
		特定行為共通科目統合演習	1	1年	
		プライマリケア看護実践Ⅰ【呼吸器関連・血糖コントロール関連】	2	2年	
		プライマリケア看護実践Ⅱ【ろう孔管理関連】	2	2年	
		プライマリケア看護実践Ⅲ【創傷管理関連】	2	2年	
		プライマリケア看護実践Ⅳ【栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連】	1	2年	
		プライマリケア看護実践Ⅴ【感染に係る薬剤投与関連】	2	2年	
		プライマリケア看護実践Ⅵ【精神及び神経症状に係る薬剤投与関連】	2	2年	
		統合演習	1	2年	
		NP活動同行実習	1	1年	
		臨地実習	14	2年	
		課題研究Ⅰ	4	1年	
		課題研究Ⅱ	1	2年	
		選択		プライマリケア看護実践Ⅶ【高度実践創傷管理】	4

看護マネジメント学、看護実践開発学、助産学、感染制御学、周手術医療安全学、滅菌供給管理学、医療栄養学、医療保健情報学の8領域は、所属領域以外の他専門領域科目（プライマリケア看護学領域以外）を履修することが可能です。

プライマリケア看護学領域は、総合領域科目および所属領域以外の他専門領域科目を履修することが可能です。

修了要件単位数

修了要件単位数	領域	必修科目		選択科目	研究演習	合計
		総合領域	専門領域			
30単位以上	看護マネジメント学	8	4	10	8	30
	看護実践開発学		4	10		
	助産学		12	2		
	感染制御学・周手術医療安全学・滅菌供給管理学		13	1		
	医療栄養学		4	10		
55単位以上	医療保健情報学	4	10			
	プライマリケア看護学	55	-	-	55	

各科目のシラバスはこちらからご覧ください



## 感染制御学

(平成21年4月設置) / 博士課程

医学、看護学、薬学、検査学各分野に関連する感染制御学学位取得を支援します

各領域で修士を取得された皆さんがさらなる発展を自律的に行い、博士にふさわしい研究能力と専門知識、技術の習得を目指します。幅広い分野の先生方(医学・薬学・保健学)の授業とともに実験を経験し最終的に論文作成、学会発表を着実に力をつけることを目的としています。

## 周手術医療安全学

(平成25年4月設置) / 博士課程

※令和8年度の募集はありません

感染制御学(平成21年4月設置)  
周手術医療安全学(平成25年4月設置)

教授 森屋 恭爾

多剤耐性菌の拡大に加え新型コロナ感染症の世界的流行を経験した今、医療施設、在宅介護の現場に加え社会全体で感染制御を実践、指導する人材が求められています。

本学では医療現場、震災現場での感染対策、COVID-19対策などを経験した教員が付き添い、皆さんが専門的知識と広い視野とを持って将来研究者・指導者・実践者、職種横断的なコーディネーターとして活躍できる人材となることを支援しています。

医療保健学研究科博士課程感染制御学領域では、感染症医療に関連する幅広い諸々の課題を解決できるよう、一緒に考え研究する環境を提供しています。

博士課程周手術医療安全学領域では、手術支援ロボット使用など高度化・複雑化する手術部位感染の防止対策等を中心とした研究を支援・指導しています。遠隔授業にも対応して仕事を続けながらの学びと研究で、博士号という最高の学位が取得できる課程です。ぜひ医療と皆さん自身の将来のために挑戦してください。



## 看護学

(平成27年4月設置) / 博士課程

先を見据えて次世代看護職者を先導する研究・教育・管理者の育成

博士課程看護学領域は、臨床現場や地域社会に貢献できる学術的知の創出による実践力の強化を目指し、専門性を備えた研究・教育・管理者の育成に主眼をおいています。そのため、「的確なビジョンの創造とその実現に向けた卓越したマネジメント能力」、「エビデンスの活用に基づく高い看護実践・開発および伝承のための能力」、「助産師としての教育・研究能力」の育成を目的とする3つの看護学研究領域が結成し、2015年4月に博士課程看護学領域を新設しました。博士課程では、研究を通じて新たな知を創造することが主たる目的です。この過程を支えるために、専門分野が異なる複数名の指導担当教員による教育体制を構築しています。

看護学(平成27年4月設置)

教授 李 廷秀

気候危機、自然災害、紛争、デジタル技術の急速な変化とともに人口構造の少子高齢化や景気回復の長期化により、医療保健を取り巻く環境は新たな多くの課題に直面しています。台頭するこれらの課題に対応していくためには、諸課題の背景とともに課題間の関わりを捉えた広い視野と先を見据えた知の創出が必要です。

同時に、誰もが自分らしく生きられる社会、多様で柔軟な働き方が選択できる社会実現への要請もあり、看護職者の役割は益々拡大しています。そのため、看護職者を先導する専門性を備えた人材が一層求められています。課題が多いということは、機会も多いということです。

博士課程では、臨床現場や地域社会が直面する課題を抽出し、理論や概念モデルを応用しながら独自の研究テーマを設定し、定量的・定性的研究手法を適切に選択し、データ収集と分析を行い、学術に貢献する知と実践に貢献するエビデンスの創出を目指します。

リーダーの役割を担う人材としての自覚と責任感を持って、自律的で創造的な取り組みが求められます。一方、職業を継続しながら研究に取り組み、その成果を発信していくのは必ずしも容易な道のりではありません。

高度な専門性を備え、次世代看護研究・教育・管理者の育成を目指す「あなたの道のり」を、私たち教員一同手厚く支援していきます。



### ◆ 修了生メッセージ



感染制御学  
博士課程  
2023年度修了生  
牧野 亜樹子

本大学院の感染制御学領域は、経験豊富な先生方のご指導の下、研究を進めることができます。修士課程入学時は研究に対する知識、技術がない状態でしたが、一から丁寧に指導を受け、修士課程を修了することができました。また、さらに研究を広げたいと考え、博士課程に進学しました。定期的に開催される研究ゼミでは、先生方や大学院生、研究生がディスカッションを交え意見交換をする場もあり、多くの刺激を受けます。研究を通して自分の知らない世界を多く知ることができました。博士課程は修了しましたが、もっと研究を続けていきたいと思い、研究生として研究を進めていくこととしました。社会人大学院生として仕事と大学院の両立は並大抵なことではできませんが、本大学院では大学院生の個々の予定に合わせてスケジュールを組み立てることができるので、私は仕事と子育てを両立しながら研究を進めることができました。日々の業務のちょっとした疑問から研究へと発展することもあるので、興味を持たれている方は是非チャレンジしてみてください。



看護学  
博士課程  
2021年度修了生  
清田 明美

大学院博士課程は、研究能力を高めるとともに研究者として自立して研究活動を行うための基礎を作る場です。本大学院は、大学院生個々の予定に配慮いただきつつ、経験豊かな先生方や院生を交えたゼミが定期的に開催され、働きながら学ぶための柔軟な指導体制が整っています。ゼミでのディスカッションは研究上の疑問が晴れることもあれば迷いが生じることもあり、研究を進めることはそれと向き合い続ける自分との闘いでもあります。しかし、さまざまにいただくご意見は刺激的かつサポートティブで、この経験を通して私は、さまざまな意見を吟味自分で判断して進める姿勢を学びました。それは、研究を自分のものとして創り上げていく充実感にも繋がるものでした。修了後、この成果を活かすことが看護への貢献に繋がり、自立した研究者としての責務だと思います。何より研究に協力して下さった研究参加者への感謝の気持ちを忘れず、研究活動を続けたいと思います。

### 修了生の論文題目

#### 感染制御学

- ・動物実験代替法を指向した生体消毒薬における毒性評価に関する検討
- ・消毒用エタノールの代替アルコールの探索と細胞形態変化による偏性細胞内寄生細菌の新規判別法の検討
- ・5-アミノレブリン酸類を用いた光線力学殺菌に関する研究
- ・医療用ニトリルゴム手袋の連続アルコール手指消毒による劣化に関する検討
- ・手荒れ防止製剤が手指消毒効果および微生物の接触伝播に及ぼす影響について

#### 看護学

- ・妊娠後期から持続する骨盤底の困窮状況 (Pelvic Floor Distress: PFD) に関する研究
- ・プリオン病患者における日常生活動作と認知機能の経時的変化ならびに特有症状と合併症の出現時期～1施設における死亡退院の診療記録を用いた後方視的研究～
- ・人工股関節全置換術を受けた患者の股関節の状態と自己管理行動実施との関連
- ・組織変革移行段階において、看護部長が果たした連結ピンとしての機能に関する研究

修士課程 都道府県別入学者(2007年～2024年)

仕事と両立できるカリキュラム。  
全国から社会人学生が通学し、学位を取得しています。

本研究科の大学院生のほとんどが社会人であり、責任ある仕事と学びを両立しています。2年という期間は、時に多忙で、厳しい場面もあります。しかし、そのような中で全国各地から集まる仲間とのネットワーキングや意見交換は、学問だけでなく、仕事や人生においても貴重な刺激となり、互いに成長を促す環境を作り出します。これらの経験を通じて、大学院生たちは学位取得を目指し、さらなるキャリアの飛躍に向けて日々前進しています。



修士課程 学生の声 ~令和5年度授業評価アンケートから抜粋~

- 新しい視点で医療を考えることができるようになったと思う。
- 研究者に直接教えていただけるため、多くの知見が得られた。
- この授業を年間通してじっくり受けたいくらいの充実した内容だった。
- 他の領域との交流を持つ機会が多く、授業終了後も情報交換できるくらい仲良くなれた。
- 社会人修士の枠組みで入学している身としては、授業内で課題が完結することが本当にありがたいです！しかしそれは決して「楽」という意味でなく、学生に寄り添った授業内容で、履習して良かったと心から思っています。
- 英語が苦手なのですが、詳細な書き方や表現を教えていただいたので、実際にabstractを書くときに役に立つと感じました。
- 質的研究に興味はなかったが、講義する先生方の熱意で興味が湧いた。新たな知見を得られた一番の授業だった。
- 自身の研究の分析を満足いくまでできたのは、この講義(先生)のおかげと思う。履習して良かった。
- 定期的にゼミを開催して下さり、ゼミまでの課題も明確にしてくださいました。先生方の手厚い指導により、論文作成に計画的に取り組めたと思います。また、自分の考えがより明確に他者に伝わるように、言葉の表現にこだわる必要があることや、多角的な視点からものを考えるなど、研究の仕方そのものを今回の経験により学ぶことができました。
- 医師からの指導は大変大きな収穫だった。
- 直接NPの指導を受けることで、視点や考察を学ぶことができ、今後の自己の活動において非常に有用であった。
- 普段の業務内容に直結する部分が多く、明日からでも活かすことができる内容を学べて良かった。

ICT環境

1人1台ノートパソコンを貸与します。  
学内は無線LANが整備され、どこでも学修に取り組みます。  
学内プリンターは無料で使用可能です。

研究支援

研究のための費用を支援しています。  
修士課程：年間上限 30,000 円(在学期間 2年：最大 60,000 円)  
博士課程：年間上限 100,000 円(在学期間 3年：最大 300,000 円)

◆ 教員データベース  
右記からご確認ください。



◆ Webオープン  
キャンパス  
各領域の紹介動画等を  
随時更新しています



## 入試概要

課程	領域	定員	選考方法	出願資格審査受付期間 (該当者のみ)	入学試験出願期間	試験日	合格発表
修士	看護マネジメント学	33	出願書類、学力試験(英語)、 面接試験を総合して選考	9月(秋季)試験 2025/7/1(火)~8/6(水)	9月(秋季)試験 2025/8/8(金)~9/8(月)	9月(秋季)試験 2025/9/20(土)	9月(秋季)試験 2025/9/24(水)
	看護実践開発学						
	助産学						
	感染制御学						
	滅菌供給管理学						
	医療栄養学						
	医療保健情報学						
プライマリケア看護学	出願書類、小論文、面接試験を 総合して選考	1月(春季)試験 2025/11/4(火)~12/3(水)	1月(春季)試験 2025/12/5(金)~2026/1/6(火)	1月(春季)試験 2026/1/17(土)	1月(春季)試験 2026/1/22(木)		
博士	感染制御学	4	出願書類、学力試験(英語)、 論文、面接試験を総合して選考	2025/11/4(火)~12/3(水)	2025/12/5(金)~2026/1/6(火)	2026/1/17(土)	2026/1/22(木)
	看護学						

## 学生納入金

	修士課程											
	看護マネジメント学・看護実践開発学・ 感染制御学・滅菌供給管理学・ 医療栄養学・医療保健情報学						助産学			プライマリケア看護学		
	1年次		2年次		1年次		2年次		1年次		2年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
入学金	500,000円	—	—	—	500,000円	—	—	—	500,000円	—	—	—
授業料	500,000円	500,000円	500,000円	500,000円	500,000円	500,000円	500,000円	500,000円	500,000円	500,000円	500,000円	500,000円
演習費・実習費等	—	—	—	—	100,000円	—	—	—	50,000円	—	150,000円	—
総合保障保険料	4,500円	—	4,500円	—	4,500円	—	4,500円	—	4,500円	—	4,500円	—
パソコン貸与料	80,000円	—	—	—	80,000円	—	—	—	80,000円	—	—	—
<b>小計</b>	<b>1,084,500円</b>	<b>500,000円</b>	<b>504,500円</b>	<b>500,000円</b>	<b>1,184,500円</b>	<b>500,000円</b>	<b>504,500円</b>	<b>500,000円</b>	<b>1,134,500円</b>	<b>500,000円</b>	<b>654,500円</b>	<b>500,000円</b>
<b>年間納入金額</b>	<b>1,584,500円</b>		<b>1,004,500円</b>		<b>1,684,500円</b>		<b>1,004,500円</b>		<b>1,634,500円</b>		<b>1,154,500円</b>	

	博士課程					
	感染制御学・看護学					
	1年次		2年次		3年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
入学金	500,000円	—	—	—	—	—
授業料	700,000円	700,000円	700,000円	700,000円	700,000円	700,000円
総合保障保険料	4,500円	—	4,500円	—	4,500円	—
パソコン貸与料	120,000円	—	—	—	—	—
<b>小計</b>	<b>1,324,500円</b>	<b>700,000円</b>	<b>704,500円</b>	<b>700,000円</b>	<b>704,500円</b>	<b>700,000円</b>
<b>年間納入金額</b>	<b>2,024,500円</b>		<b>1,404,500円</b>		<b>1,404,500円</b>	



## 奨学金制度

### ◆ 日本学生支援機構奨学金

募集時期：毎年春

選考方法：本学の選考および推薦後、当該機構の審査

返還免除制度：有

	貸与額(月額)	
	修士課程	博士課程
第一種奨学金(無利子)	50,000・88,000円	80,000・122,000円
第二種奨学金(有利子)	50,000・80,000・100,000・130,000・150,000円	

### ◆ 東京都看護師等修学資金(無利子)

卒業後、都内で看護業務に従事する意思がある方に対して修学資金を貸与する制度。  
大学院は修士課程の在学生在が対象。

募集時期：毎年春

選考方法：本学の推薦後、東京都の審査

貸与金額：25,000円・50,000円・75,000円・100,000円 ※いずれか1口

返還免除制度：有

## 専門実践教育訓練給付金

働く人の中長期的なキャリア形成を支援する雇用保険の給付制度で、一定の受給条件を満たした場合、2年間で最大128万円が支給されます。本研究科修士課程の約7割の方が利用しています。

【対象】修士課程 看護マネジメント学・看護実践開発学・助産学・感染制御学・医療栄養学

詳細は厚生労働省のホームページをご確認のうえ、お住まいの住所を管轄するハローワークにお問合せください。



地域の基幹病院との連携を軸に、豊富な臨床現場での教育を通して未来の医療に貢献できる医療人を育成

今年度、理事長に就任しました田村聡明と申します。開学から20年、本学初代理事長が掲げた建学の理念、教育目標を引継ぎ、未来に向け新しい東京医療保健大学と一緒に作っていきましょう。日本は2035年に、団塊の世代が85歳以上となり、人口における高齢者は3割以上、高まる介護需要に対しての人材不足や、現役世代の減少による経済の縮小など、さまざまな社会問題が複合的に表面化すると予測されています。社会サービスやインフラにも大きな影響があるでしょう。しかし、私は「教育の力」を信じています。医療保健の分野は、人間が人間らしく生きることを支援する大事な役割を担っています。その役割は、社会的な需要とともに、益々大きくなることは間違いなく、その責務を果たすためにも、多様な考え方や価値観を受容する心(知性)と、他者への思いやり(人間性)を兼ね備える必要があります。その心を育てるのが教育で、その心こそが、これからの日本を支える大切なものです。

本学は、学部開設にあたり、地域で信頼の厚い基幹病院との連携を何よりも大切にしてきました。地域の基幹病院は、救急救命をはじめ、さまざまな分野を最前線で学ぶことが出来る最適な場所であり、実践力を鍛える場として、もっとも有効な場所でもあります。世の中は常に変化し、医療に関わる技術も絶えず進化しています。常に学び続ける姿勢も重要ですが、それに対応出来る学びの環境も重要で、日々臨床現場での実践活動を教育に活かすためにも、病院連携を軸に現場教育を通して、医療職の育成に取り組んでいます。

また、本学の学部・学科は、どれもが未来の医療を見据えたものです。「国際看護」や「災害看護」の副専攻から、「地域包括ケア」の推進に伴う「在宅医療」や「訪問看護」を担える医療専門職の育成まで、幅広く取り組みを続けています。

さらに、本学大学院では、医師と協働し、病院や地域で包括的ケアの中心的役割を担える「診療看護師(NP)」も養成しています。学部や大学院の学びの広がり、多様な学びを広げていく機会ともなり、卒業生がさまざまな医療機関において、それぞれの専門分野で活躍しています。

今後も、豊富な臨床現場で実践力を磨き、多種多様な医療保健の専門職と「協働」し、未来の医療保健に貢献できる人材の輩出を目指していきます。

東京医療保健大学 理事長 田村 聡明

## よくある質問

- Q 講義は全て対面講義ですか。遠隔講義を希望することはできますか？
- A 講義や研究指導は、対面および遠隔(オンデマンド方式、リアルタイム方式)で行っています。授業方法については、科目の学修効果によっても異なるため、科目責任者の判断により決定されます。原則、個人のご都合(対面講義を遠隔で受けたい等)には、対応しておりませんので、ご了承ください。
- Q 英語の試験が心配です。どのような準備をしたら良いですか？
- A 試験には、辞書や電子辞書の持ち込みが可能です。試験に向けた準備の仕方等は、個別相談で教員にご相談ください。

多様な仲間とも交流し、仕事をしながら修学・研究できる「修士課程」と「博士課程」でこれからの医療・保健・福祉を探索



東京医療保健大学大学院には医療保健学研究科(五反田キャンパス:品川区東五反田)、看護学研究科(国立病院機構キャンパス:目黒区東が丘)、和歌山看護学研究科(日赤和歌山医療センターキャンパス:和歌山県和歌山市)、千葉看護学研究科(船橋キャンパス:千葉県船橋市)があります。いずれも、研究と実践を通じ医療人に必要とされる「判断力、思考・研究力、実践・管理力」等を身につけ医療・保健・福祉の発展に貢献できる心温かい医療人・教育者・研究者を育成することを目指しています。

医療技術が進歩し、高度化・複雑化する中で、医療現場では、今まで以上に質の高い医療専門職が求められています。大学院での修学・研究によりさらにご自身の付加価値を高めてみませんか。大学卒でなくても条件を満たせば大学院に入学できます。

本学の「医療保健学研究科」の特徴は何といても仕事を続けながら学位が取れることです。土・祝日の講義・演習や連休を利用した年3回の集中講義等、個人々の事情を考慮した柔軟なスケジュールで対応しているため、全国から大学院生が集まっています。修士課程では「看護マネジメント学」、「看護実践開発学」、「助産学」、「感染制御学」、「プライマリケア看護学」、「医療栄養学」、「医療保健情報学」等、9領域をカバーし、博士課程には「看護学」、「感染制御学」、「周手術医療安全学」の3領域が用意されています。全領域合同で行う発表会等もあり、他領域の院生や教員と意見交換できるのも魅力です。必要に応じて遠隔授業・討論にも対応しております。

大学や専門学校を卒業後もキャリアアップを図り、現場に根付いた診療看護師(NP)をはじめとした医療専門職や指導者、あるいは教育・研究者として活躍できるよう、ぜひ大学院での学びに挑戦してください。

東京医療保健大学 学長 亀山 周二



- Q 私は大学卒業資格を持っていません。大学卒業者ではないと受験はできないのでしょうか？
- A 入学試験出願資格審査期間内に書類による本研究科の審査を受けていただき、大学卒業者と同等以上の学力があると認められた方は、出願資格を有します。出願資格は領域により異なりますので、詳細は学生募集要項を必ずご確認ください。
- Q 入学後、学費など経済的な面が心配です。奨学金制度などはありますか？
- A 日本学生支援機構の奨学金制度および東京都看護師等修学資金を取り扱っています。また、修士課程の看護マネジメント学、看護実践開発学、助産学、感染制御学、医療栄養学は、厚生労働省の教育訓練給付制度の指定講座となっています。一定の条件を満たす場合、受講費用の一部(2年間で最大128万円)が支給されます。詳細は厚生労働省のホームページをご確認ください。

# 三つの方針

## 大学院医療保健学研究科 修士課程

入学受け入れの方針	教育課程編成・実施の方針	学位授与の方針
<p>科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動を通じて、各領域において医療保健分野における学際性及び専門性を追求し、さらにマネジメント能力の兼備、医療保健現場における実践の質の向上を図ることとし、学際的・国際的な視点から医療保健学を教授し臨床現場における実践能力及び研究・教育・管理能力を持つ高度専門職業人を育成するため、入学者には次の資質が求められます。</p> <p><b>看護マネジメント学領域</b></p> <p>(1) 所属組織における管理や協働経験を有し、部署・組織とともに地域全体の看護の質向上・改善までを含むビジョンを描き、リーダーシップを発揮する意欲のある者</p> <p>(2) 現場の看護管理の実践に、経営学や質管理などの学問的知識や手法が必要と考え、さらに学修を深めたいという意欲がある者</p> <p>(3) クリニカルエスジョン（臨床での疑問）を持ち、その社会的意義や学術的意義を考へていく意欲のある者</p> <p>(4) 学位取得および働きながら研究活動を遂行する意欲のある者</p> <p><b>看護実践開発学領域</b></p> <p>(1) 看護の実践知に関心を持ち、より良い看護を探求しようとする意欲を有する者</p> <p>(2) 社会のニーズに応じ、先を見据えて新たなケアを創出する意欲を有する者</p> <p>(3) 実践の知を医療の現場に還元し、今後の医療保健に貢献する意欲を有する者</p> <p><b>助産学領域</b></p> <p>(1) 助産師としての臨床経験を有し、確実な助産実践能力、患者教育及び学生・同僚への教育・指導力等の向上に意欲を有する者</p> <p>(2) 自らの考えを表現し、また、他者からのフィードバックを受け入れて統合する力を備えている者</p> <p>(3) 臨床における問題意識を有し、専門知識と実践力を生かして自ら行動し変化を起こす意欲を備えている者</p> <p>(4) 実践と概念を結びつけるための思考能力の基礎を有する者</p> <p><b>感染制御学領域</b></p> <p>(1) 感染制御学の基礎的知識を有し、体系的に学ぶ意欲を有する者</p> <p>(2) 臨床現場および社会との関連において、双方向的に卓越した実践能力・調整能力を身に付ける意欲のある者</p> <p>(3) 専門性をより高め、体系的な感染制御を学ぶ意欲を有する者</p> <p>(4) 学位取得および働きながら研究活動を遂行する意欲のある者</p> <p><b>周手術医療安全学領域</b></p> <p>(1) 周手術の医療安全における基礎的知識を有し、体系的に学ぶ意欲を有する者</p> <p>(2) 臨床現場において、卓越した実践能力・調整能力を身に付ける意欲のある者</p> <p>(3) 専門性を高め、今後の周手術医療安全に貢献する意欲を有する者</p> <p>(4) 学位取得および働きながら研究活動を遂行する意欲のある者</p> <p><b>滅菌供給管理学領域</b></p> <p>(1) 滅菌供給における基礎的知識を有し、総合的に学ぶ意欲を有する者</p> <p>(2) 臨床現場および社会との関連において、双方向的に卓越した実践能力・調整能力を身に付ける意欲のある者</p> <p>(3) 専門性をより高め、学問的知識や手法を体系的に学ぶ意欲を有する者</p> <p>(4) 学位取得および働きながら研究活動を遂行する意欲のある者</p> <p><b>医療栄養学領域</b></p> <p>(1) 医療・保健分野における社会のニーズを踏まえ、それらに対する問題意識を有し、その解決に意欲を有する者</p> <p>(2) 高度専門職としての臨床経験を有し、患者の栄養サポート能力、および同僚への教育・指導力等の向上に意欲を有する者</p> <p>(3) 専門知識と臨床における実践力を統合し、論理的思考力を高め、今後の医療・保健に貢献する意欲を有する者</p> <p><b>医療保健情報学領域</b></p> <p>(1) 医療保健分野における実践的な知識や経験を通して問題意識を持ち、社会共通の課題として探求する意欲がある者</p> <p>(2) データサイエンス・情報学を学び、実</p>	<p>1. 科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動を通じて、学際的・国際的視点から医療保健学を伝授し、臨床現場における優れた実践能力及び研究・教育・管理能力を有する高度専門職業人を育成するための教育課程を編成し、実施します。</p> <p>2. 医療保健に関する知識を含め応用力・実践力・マネジメント力豊かな人材を育成するため、8つの領域（看護マネジメント学、看護実践開発学、助産学、感染制御学、周手術医療安全学、滅菌供給管理学、医療栄養学、医療保健情報学）に共通した総合領域必修科目及び選択科目を開設します。</p> <p>3. 医療の実践現場で役立つ研究課題を追求するとともに、現場の抱える関連諸問題解決に寄与するため各領域の専門分野に応じた必修科目、選択科目及び研究演習を開設します。各領域における方針は次のとおりです。</p> <p><b>看護マネジメント学領域</b></p> <p>(1) 組織経営、人材育成、活用、医療組織の質保証に関する知識を身につけることができるよう、教育課程を編成します。授業において経験事例等のプレゼンテーションおよびディスカッションを実施し、協力して問題を分析し改善策を探索する力を養います。</p> <p>(2) 実践の場での問題解決に活用できる研究力を修得できるよう、教育課程を編成します。量的研究および質的研究の方法論やそれぞれの先行研究を理解するために統計的知識・手法を教授します。修士論文作成を進めるプロセスにおいて、①文献読解を重んじ、知を積み上げながら研究デザインする力、②臨床から生じた研究疑問を広い視野で捉えて再考し、説明する力、③分析結果に基づき考察する力を養います。また、研究倫理を理解し、適切なデータ管理の方法を教授します。</p> <p><b>看護実践開発学領域</b></p> <p>(1) チーム医療の一員として医療現場におけるコラボレーションを実現するため、医療保健に関する高度な専門知識を修得できるよう教育課程を編成します。</p> <p>(2) 「開発」をキーワードに看護実践の4つの柱として「探索」「構築」「研究」「発信」を位置づけ、高い倫理観と学際性に基づき看護の社会貢献を実現するための教育課程を編成します。看護実践における興味・関心、問題意識に基づき、個々の課題を深く探求するとともに、多様な看護の実践可能性に視野を広げる教育機会を提供します。</p> <p><b>助産学領域</b></p> <p>(1) 妊産婦ケア提供システムの改革を推進し、助産ケアの質向上と発展に創造的に取り組む人材の育成ができる以下の科目を編成します。臨床助産学特論・演習では、基礎的知識と実践能力を探究します。助産学教育特論・演習では、ヘルスプロモーション、対象者の健康教育等により助産診断の実践力を探究し、教育活動ができる能力を学修します。</p> <p>(2) 高い倫理観と科学的に基づくウィメンズヘルスと助産ケアをめざす教育・研究能力を有する実践者の育成ができる科目を編成します。助産学特論Ⅰでは、ウィメンズヘルスの対象となる女性やその家族について、社会の動向を理解し、女性のライフサイクル各期の特徴を理解し健康問題に対する援助とその実践について学修します。助産学特論Ⅱでは、アプロダクティブヘルスを基盤とする母子や女性に対する保健医療活動の実際や健康を享受することの格差など、国際時代に生じる母子保健の多様性と課題について学修します。</p> <p>(3) 自律性をもって保健医療福祉の多職種と連携し、看護職としてのリーダーシップを発揮できる能力を育成するために、ゼミでの討議、授業内でのプレゼンテーション、教育活動の実際や臨地実践を通して学修します。</p> <p><b>感染制御学領域</b></p> <p>感染制御学研究の基盤となる知識を修得するため、講義、実験演習、論文輪講等のカリキュラムを編成します。</p> <p>(1) 感染制御学の歴史や法律、主に基盤となる感染症の医学的知識や病院設備に関連した感染制御の視点、医療現場の洗浄・消毒に関する基本的な知識を修得できるよう教育課程を編成します。</p> <p>(2) 感染症の原因となる微生物を理解し、微生物検査結果を感染制御活動に適用するための能力を養います。感染制御に使用する消毒薬、器材に関して微生物学的な見地からの課題について学修します。</p> <p>(3) 感染制御学領域での研究対象の設定から、臨床で生じた研究疑問を広い視野で捉えて再考し、エビデンスを構築する力、説明する力、分析結果に基づき考察する力を学修します。</p> <p><b>周手術医療安全学領域</b></p> <p>周手術医療安全学の基盤となる知識を修得するため、講義、実験演習、論文輪講等のカリキュラムを編成します。</p> <p>(1) 周手術期における歴史や法律、主に基盤となる術前・術中・術後の医学的知識や病院設備（特に手術室空調）に関連した感染制御の視点、医療現場の洗浄・消毒・滅菌に関する基本的な知識を修得できるよう教育課程を編成します。</p> <p>(2) 感染症の原因となる微生物を理解し、周術期に使用する消毒薬、器材・器械に関して微生物学的な見地からの課題について学修します。また、医療器械の洗浄・滅菌のモニタリングやバリデーションを理解する科目を編成します。</p> <p>(3) 周術期領域での研究対象の設定から、臨床で生じた研究疑問を広い視野で捉えて再考し、エビデンスを構築する力、説明する力、分析結果に基づき考察する力を学修します。</p> <p><b>滅菌供給管理学領域</b></p> <p>滅菌供給管理学の基盤となる知識を修得するため、講義、実験演習、論文輪講等のカリキュラムを編成します。</p> <p>(1) 滅菌供給および感染制御に関する歴史や法律、病院設備に関連した感染制御の視点、洗浄・滅菌の原理に関する知識を身につけるとともに、滅菌供給管理の基盤となる消毒薬の基礎知識や関連する感染症の医学的知識を修得できるよう教育課程を編成します。</p> <p>(2) 感染症の原因となる微生物を理解し、感染制御に使用する消毒薬、器材・器械に関して微生物学的な見地からの課題について学修します。また、医療器械の洗浄・滅菌のモニタリングやバリデーションを理解する科目を編成します。</p> <p>(3) 滅菌供給管理学領域での研究対象の設定から、臨床で生じた研究疑問を広い視野で捉えて再考し、エビデンスを構築する力、説明する力、分析結果に基づき考察する力を養います。</p> <p><b>医療栄養学領域</b></p> <p>(1) 医療・保健分野において社会のニーズに応えられる病態アセスメントに強</p>	<p>1. 医療保健学研究科修士課程の修了要件を満たすとともに、以下に掲げる全領域共通の能力及び第2項以下の各領域に掲げる能力を有する高度専門職業人であると認められる者に修了とし、修士の学位を授与します。</p> <p><b>〈各領域共通〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・臨床現場における優れた実践能力及び研究・教育・管理能力を有していること</li><li>・医療保健に関する知識を含め応用力・実践力・マネジメント力を備えていること</li></ul> <p>2. 各領域における学位授与の方針は次のとおりです。</p> <p><b>看護マネジメント学領域</b></p> <p>第1項の要件を満たすとともに、より良い看護の継続的な提供を目指し、現状及び近い将来予測される課題を見出し、適切な研究方法を用いて看護マネジメントに取り組む態度、論理的思考力、創造力を有すると認められる者に修士（看護マネジメント学）の学位を授与します。</p> <p>(1) 実践の場の改革とともに、政策提言も視野に、地域・社会の変革に向けたビジョンを描き、リーダーシップを発揮する能力</p> <p>(2) 多様な能力・価値観を認め結集し、目標に向かって協働を促す能力</p> <p>(3) 最新の国際・学際的知見および関係者の意見等をふまえて自分の考えを統合し、口頭・文章表現によって的確に伝える（発信する）能力</p> <p>(4) 目の前の問題から看護の普遍的な価値を持つ課題を見出し、社会的・学術的背景を探究した上で、介入方法を評価・改善し続ける能力</p> <p><b>看護実践開発学領域</b></p> <p>第1項の要件を満たすとともに、複雑な医療ケアの場における課題を見出し、適切な研究方法を用いて看護実践の質改善に貢献しようとする態度、論理的思考力、想像力を有すると認められる者に修士（看護実践開発学）の学位を授与します。</p> <p>(1) 複雑な医療ケアの場における課題を見出し、その課題を探究するための基礎的研究能力</p> <p>(2) 社会背景の変化に応じ、対象のニーズに即したケアを創出し看護実践の質改善に貢献できる能力</p> <p>(3) 高い倫理観と医療保健に関する幅広い知識を有し、ケアの質向上に向けて継続して研究・発信していく能力</p> <p><b>助産学領域</b></p> <p>第1項の要件を満たすとともに、助産領域におけるEBM（根拠に基づく医療）に基づいた高度な実践力と研究力、チーム医療での協働と折衝力、貢献力を有すると認められる者に修士（助産学）の学位を授与します。</p> <p>(1) 高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力</p> <p>(2) 保健・医療の現場において、問題意識を持ち、研究を推進できる能力</p> <p>(3) 保健・医療の実践現場で他の分野と連携して、修正および変革に貢献できる能力</p> <p><b>感染制御学領域</b></p> <p>第1項の要件を満たすとともに、現場における感染制御学の課題を見出し、客観的かつ論理的に解決できる能力を有すると認められる者に、修士（感染制御学）の学位を授与します。</p> <p>(1) 医療現場に直結した感染制御の課題を解決する能力</p> <p>(2) 最新の学際的な知見および他の専門家の意見等をふまえて自分の考えを統合し、的確に発信する能力</p> <p>(3) 社会的・学術的背景を理解し、関連要因を探究した上で継続して研究し、その成果を発信していく能力</p> <p><b>周手術医療安全学領域</b></p> <p>第1項の要件を満たすとともに、周手術の現場における医療安全に関する課題を見出し、客観的かつ論理的に解決できる能力を有すると認められる者に、修士（周手術医療安全学）の学位を授与します。</p> <p>(1) 周手術の課題を解決する能力</p> <p>(2) 最新の学際的な知見および他の専門家の意見等をふまえて自分の考えを統合し、的確に発信する能力</p> <p>(3) 社会的・学術的背景を理解し、関連要因を探究した上で継続して研究し、その成果を発信していく能力</p> <p><b>滅菌供給管理学領域</b></p> <p>第1項の要件を満たすとともに、現場における滅菌供給管理の課題を見出し、客観的かつ論理的に解決できる能力を有すると認められる者に、修士（滅菌供給管理学）の学位を授与します。</p> <p>(1) 滅菌供給の課題を解決する能力</p> <p>(2) 最新の学際的な知見および他の専門家の意見等をふまえて自分の考えを統合し、的確に発信する能力</p> <p>(3) 社会的・学術的背景を理解し、関連要因を探究した上で継続して研究し、その成果を発信していく能力</p> <p><b>医療栄養学領域</b></p> <p>第1項の要件を満たすとともに、臨床現場における卓越した栄養サポート能力及び研究・教育・管理能力を有すると認められる者に修士（医療栄養学）の学位を授与します。</p> <p>(1) 医療・保健分野において、問題意識をもち、課題を探究することができる基礎的な研究能力</p> <p>(2) 臨床において、他分野と協働し卓越した栄養サポートを行うことができる能力</p> <p>(3) 医療・保健に関する幅広い知識を有し、栄養管理や臨床検査の質の向上に向け、継続的に研究・発信していく能力</p>

入学受け入れの方針	教育課程編成・実施の方針	学位授与の方針
<p>践するための社会人基礎力がある者</p>	<p>い栄養や臨床検査のスペシャリストの養成を主眼とし、専門的かつ高度な知識を体系的に学び、論理的思考力を高めて、さらなる実践能力を修得できるよう、カリキュラムを編成します。</p> <p>(2) 栄養摂取および栄養管理と疾病発症・疾病予防との関係を体系的に学修し、傷病者における栄養ケアおよび栄養管理の在り方を考察できる力を養います。</p> <p>(3) 研究論文の精読を通して、論文の結果を客観的な視点で読み取り応用する力を養います。また、論文から得た知見を発表会やディスカッションを通して、自分の言葉で人に伝える力を養う場を提供します。</p> <p><b>医療保健情報学領域</b></p> <p>(1) 医療保健分野におけるデータサイエンス・情報学の多様なアプローチを学び、研究実践の学問的基盤を構築するための科目を設定します。</p> <p>(2) 学生の実践・経験に基づく問いを出発点として、先行研究のサーベイや多様な教員との議論を通して研究課題を探索し、研究を実践するための科目を設定します。</p>	<p><b>医療保健情報学領域</b></p> <p>第1項の要件を満たすとともに、医療保健分野の課題を見出し、データサイエンス・情報学を活用して解決できる能力を有すると認められる者に、修士（医療保健情報学）の学位を授与します。</p> <p>(1) 医療保健分野における社会的・実践的な課題に対して、探求すべき問いを立てる能力</p> <p>(2) 課題解決の基盤となるデータサイエンス・情報学の知識・技能および実践能力</p> <p>(3) 医療現場においてデジタルトランスフォーメーションを横断的に推進し、課題解決を紡ぎ出す能力</p>
<p><b>プライマリケア看護学領域</b></p> <p>(1) 個人・家族の健康の質・生活の質や価値観を重視して地域の人々の健康の維持・増進・疾病の悪化予防に寄与する意欲を有する者</p> <p>(2) 在宅・施設・病院の機能をつなげ、看護の専門性に基づくマネジメントに対して関心が高い者</p> <p>(3) 多職種と連携・協働するための人間関係を構築する能力を有する者</p> <p>(4) 高度な看護実践を現場に根差して提供しながら、常によりよい看護を自ら発展させる意欲をもつ者</p>	<p>(1) プライマリケア看護実践において、医療行為を安全に実施するために必要な特定行為研修科目の内容を含めます。</p> <p>(2) プライマリケアの包括性・継続性を理解し、現場に根差した役割を發揮するための高度実践看護にかかわる科目を配置します。</p> <p>(3) カリキュラムは、日本NP教育大学院協議会の示す大学院における授業設置基準となる授業科目および本学の独自科目（必修55単位以上）で構成します。併せて特定行為研修修得に必要な共通科目と本学の養成する人材に必要な区分別科目（7区分11行為）を配置します。</p> <p>(4) 履修は、必修55単位以上（日本NP協議会規定）ほか、院生が自由に修得できるように選択科目を準備します。</p> <p>(5) 授業（講義・演習）は、オンラインを最大限使用し、仕事を続けながら学位を取得できる仕組みを作ります。</p>	<p>以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得するとともに、課題研究論文審査に合格し、以下の要件を満たしたと認められる者に対し、修士（プライマリケア看護学）の学位を授与します。あわせて、特定行為研修修了（7区分11行為）、一般社団法人日本NP教育大学院協議会の診療看護師（NP）資格認定試験の受験資格を授与します。</p> <p>(1) 在宅、施設、病院において疾患をもつ人や状態変化のある人に対して、包括的健康アセスメント、的確な臨床判断、治療の管理、治療効果の評価を実施できる能力を身につけている。</p> <p>(2) 対象に必要なケアについて医師ならびに関係者と連携・協働を推進できる能力を身につけている。</p> <p>(3) 個人（個々人）の健康の質・生活の質や価値観を重視し、看護倫理に基づいた統合的な高度看護実践能力を身につけている。</p> <p>(4) 現場に根差し、実践的な課題解決にむけて、根拠のある高度な看護を提供（実践）しながら常によりよい看護を自ら発展させるための研究能力を身につけている。</p>

## 大学院医療保健学研究科 博士課程

入学受け入れの方針	教育課程編成・実施の方針	学位授与の方針
<p>科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動を通じて、学際的・国際的視点から医療保健学を伝授し、医療に関連する社会における卓越した実践能力及び研究・教育・管理能力を有する高度専門職業人を育成するため、入学者には次の資質が求められます。</p> <p><b>感染制御学領域</b></p> <p>(1) 感染制御学の体系的な知識を有し、学術研究と臨床現場および社会での実践を推進するための倫理性と責任感を備える者</p> <p>(2) 臨床現場および社会との関連における実践能力と調整能力を基に、学際的・国際的視点で先駆的な研究成果をあげ、学術の高度化に寄与する意欲を有する者</p> <p>(3) 先駆的な研究成果をあげ、学術の高度化に寄与し、かつ牽引者として後進を指導しようとする目的意識のある者</p> <p><b>周手術医療安全学領域</b></p> <p>(1) 周手術の医療安全における体系的な知識を有し、学術研究と臨床現場での実践を推進するための倫理性と責任感を備える者</p> <p>(2) 臨床現場における実践能力を基に、学際的・国際的視点で先駆的な研究成果をあげ、学術の高度化に寄与する意欲を有する者</p> <p>(3) 先駆的な研究成果をあげ、学術の高度化に寄与し、かつ牽引者として後進を指導しようとする目的意識のある者</p> <p><b>看護学領域</b></p> <p>医療保健の領域のみならず広く人材を求め、多分野を橋渡しし、研究・教育・管理・運営できる人材を養成し、臨床現場のみならず産・官・学へ広く輩出していくことを目指し、入学者には以下の資質と意欲が求められます。</p> <p>(1) 医療保健学に関する学術研究と臨床実践を推進するための倫理観と責任感を備えた者</p> <p>(2) 論理的思考力と実践の専門的知識とともに、医療保健学に関する課題解決に貢献し、新たな医療保健システムの構築・発展に寄与する立案・企画、および運営・実践に意欲のある者</p> <p>(3) 先駆的な研究成果をあげ、学術の発展に寄与し、かつ後進を指導しようとする目的意識のある者</p>	<p>1. 科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究及び臨床活動を通じて、学際的・国際的視点から医療保健学を伝授し、医療に関連する社会における卓越した実践能力及び研究・教育・管理能力を有する高度専門職業人を育成するための教育課程を編成し、実施します。</p> <p>2. 教育研究実践の高度化・専門化に対応し、我が国の医療現場等において各領域の専門的知識をもって中心的指導者として活躍できる人材を育成するために、各領域に関する特別講義及び特別研究により研究演習を開設します。</p> <p>3. 各領域における教育課程編成・実施の方針は次のとおりです。</p> <p><b>感染制御学領域</b></p> <p>(1) 感染制御学研究の基盤となる感染制御学の歴史や関連法律、感染症の医学的知識、医療現場の洗浄・消毒に関する知識を基に、国際的な視点での最新の感染制御学に関する知識を修得できるよう教育課程を編成します。</p> <p>(2) 臨床現場および社会での実践において、研究疑問を広い視野でとらえて再考し、エビデンスを構築する力、説明する力、分析結果に基づき考察する力、中心的指導者として人材を育成できる力を学修します。</p> <p><b>周手術医療安全学領域</b></p> <p>(1) 周手術医療安全学研究の基盤となる周手術期における歴史や関連法律、術前・術中・術後の医学的知識や手術室関連設備に関連した感染制御の視点、医療現場の洗浄・消毒・滅菌に関する知識を基に、国際的な視点での最新の周手術医療安全学に関する知識を修得できるよう教育課程を編成します。</p> <p>(2) 周手術医療安全学領域での研究対象の設定から臨床で生じた研究疑問を広い視野でとらえて再考し、エビデンスを構築する力、説明する力、分析結果に基づき考察する力、中心的指導者として人材を育成できる力を学修します。</p> <p><b>看護学領域</b></p> <p>学位授与方針に掲げる目標を達成するために、特別講義、特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱ、特別研究Ⅲ、指導教員による演習とゼミを通して、以下の教育・指導を実施します。</p> <p>(1) 高い倫理観と責任感の醸成</p> <p>(2) 基盤的・先端的な専門知識の修得</p> <p>(3) 研究の企画・遂行能力の涵養</p> <p>(4) 創造性豊かな研究・開発・論文執筆能力の育成</p> <p>(5) 研究成果を社会に発信し、社会を牽引する能力の涵養</p>	<p>1. 3年以上在学し、所定科目を修得した上で、第2項以下の各領域に掲げる能力を有する高度専門職業人であると認められるとともに、研究成果である博士学位論文について厳正なる審査により合格と認められる者に、博士の学位を授与します。</p> <p>2. 各領域における学位授与の方針は次のとおりです。</p> <p><b>感染制御学領域</b></p> <p>第1項の要件を満たし、広い視野に立った研究活動を行い、感染制御学の牽引者としての以下の能力を有すると認められる者に、博士（感染制御学）の学位を授与します。</p> <p>(1) 医療現場に直結した感染制御の課題を解決する卓越した能力</p> <p>(2) 社会的かつ最新の学際的な知見から課題を解決し価値を創出できる卓越した能力</p> <p>(3) 学際的な研究・技術開発に参画して研究を牽引できる先駆的研究能力と教育・指導力</p> <p><b>周手術医療安全学領域</b></p> <p>第1項の要件を満たし、広い視野に立った研究活動を行い、周手術医療安全学の牽引者としての以下の能力を有すると認められる者に、博士（周手術医療安全学）の学位を授与します。</p> <p>(1) 医療現場に直結した周手術の医療安全に関する課題を解決する卓越した能力</p> <p>(2) 社会的かつ最新の学際的な知見から課題を解決し価値を創出できる卓越した能力</p> <p>(3) 学際的な研究・技術開発に参画して研究を牽引できる先駆的研究能力と教育・指導力</p> <p><b>看護学領域</b></p> <p>3年以上在学して教育理念・目標にそった授業科目を16単位以上履修し、研究指導を受け博士論文を作成・提出し、所定の審査に合格した者に博士（看護学）学位を授与します。</p> <p>なお、修了にあつては、以下の点に到達していることを目標とします。</p> <p>(1) 知性をもって社会に貢献できる資質と態度を備え、学術研究と臨床活動における高い倫理観と責任感があること</p> <p>(2) 当該専門領域における課題解決力と価値の創出力があり、先駆的研究・技術の開発・教育活動を発展させることができること</p> <p>(3) 科学的根拠のある研究成果を社会に発信でき、学際的な研究・開発に参画し、指導的役割を担えること</p>

イベント開催予定  
[事前申込み制]

2025年5月31日(土)

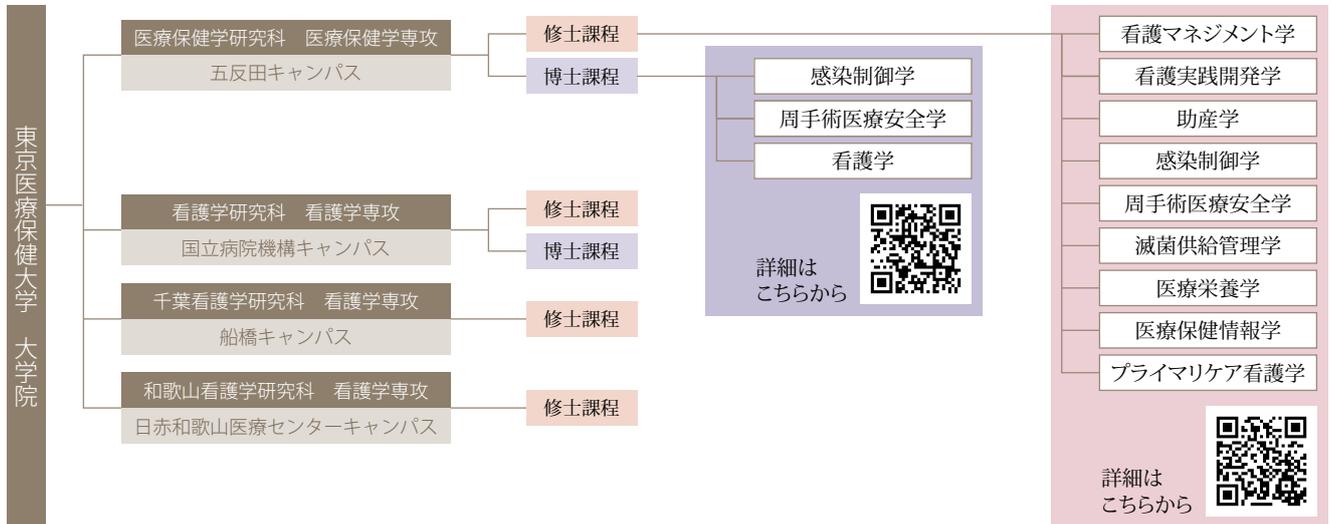
- 大学院医療保健学研究科 公開講座「先をみる医療」
- Web入試説明会

2025年10月27日(月)

- Web入試説明会

詳細は本学HPに順次掲載します

## 大学院構成図



### 学生募集要項ダウンロード

HP>大学院>医療保健学研究科>入試情報  
※募集要項はWeb上の掲載のみとなります。



### 入試個別相談

医療保健学研究科にご興味をお持ちの方、受験をお考えの方を対象に、各領域の教員による個別相談を実施しています。  
(完全予約制:所要時間30分~1時間程度。オンライン可)



## 五反田キャンパス アクセス

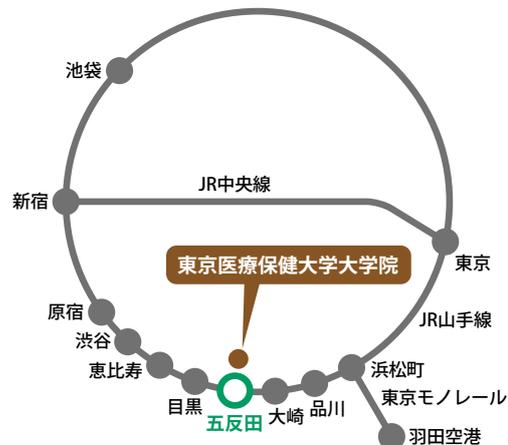


キャンパス内に駐車場はございませんので公共交通機関をご利用ください

東京駅から最寄り「五反田」駅まで 約17分

羽田空港第2ターミナル駅から最寄り「五反田」駅まで 約34分

JR山手線、東急池上線、都営浅草線「五反田」駅より徒歩 約8分



## 東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科 入試事務室

〒141-8648 東京都品川区東五反田4-1-17  
TEL:03-5421-7685(大学院代表)  
E-mail:info-master@thcu.ac.jp  
URL:https://www.thcu.ac.jp/

大学院  
医療保健学研究科HP



東京医療保健大学は、2018年度に公益財団法人大学基準協会の評価の結果、同協会の大学基準に適合していると認定されました。  
認定期間は、2019年4月1日より7年間(2026年3月末日まで)となります。